

博物館だより



No.86

平成25年6月1日

みやこ町歴史民俗博物館発行
福岡県京都郡みやこ町豊津1122-13
TEL 0930-33-4666

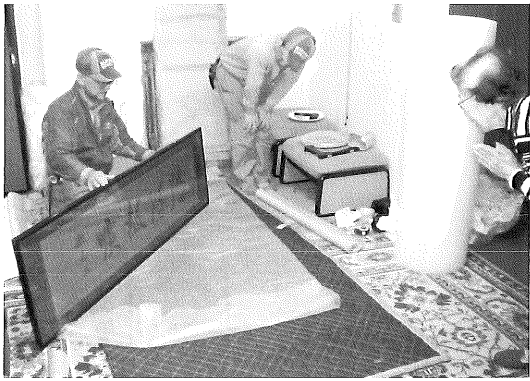
小宮豊隆資料を

ご寄贈いただきました

みやこ町犀川久富出身のト

イツ文学者で、夏目漱石の門下生として活躍した小宮豊隆氏の資料477点が、東京都在住の小宮里子氏(豊隆氏三女)より当館に寄贈されました(小宮豊隆氏について詳しいことは裏面参照)。寄贈資料の主な内容は次のとおりです。

- ◎夏目漱石からの手紙 約120点
- ◎物理学者・寺田寅彦からの手紙 約220点
- ◎夏目漱石自筆の



▶杉並区・小宮家での梱包作業



◀夏目漱石「菊花圖」

漢詩紀行文「木屑録」

(正岡子規の朱筆入り)

◎夏目漱石自筆の絵や書

約30点

◎その他、夏目漱石が小宮豊隆に贈った肖像写真(旧千田札の肖像写真他)など
今回ご寄贈いただいた小宮豊隆資料は、同氏の足跡を物語る資料としては勿論、漱石資料のコレクションとしても、国内屈指のものであります。ご遺族のご厚意に心から感謝し、永く当館の宝として保管・展示致します。

みやこ町歴史民俗博物館

友の会会員募集!

みやこ町歴史民俗博物館友の会では、平成25年度の会員を募集しています。

博物館友の会は「故郷を愛するには、まず故郷を知ることから」をモットーに、講演会やバスハイク、史跡めぐりなどの行事を行っています。平成24年度の会員数は約180名で、いかなる団体からも補助は受けず、会費収入のみの独立採算で運営しています。興味のある方などなたでも参加いただけます。ぜひご入会下さい!

♪入会の方法

博物館の窓口で会費を納めてください。

♪年会費

個人会員 3000円

家族会員 1名2000円

※年度途中の新規入会者は月割会費

♪お問い合わせ先

博物館内 友の会事務局

TEL 0930-33-4666

博物館友の会

平成25年度の主な予定行事

●8月3日 バスハイク①

九州国立博物館特別展「中国王朝の至宝」、福岡市博物館特別展「インカ帝国展」

●9月1日「歴史文化カレッジ」

博物館主催事業「歴史文化カレッジ」の開催協力。3月までに6回の講演会事業を実施予定。他の歴史団体とも連携。

- ①「ふるさとの食」(9月)
- ②「古代の福岡」(10月)
- ③「花の成立と展開」(11月)
- ④「福岡のまつり」(12月)

など

●10月14日(予定)「古墳まつり」イベントの協賛参加

●11月23日 バスハイク②

焼き物の里めぐり(日田市)

●12月7日 三重塔すす払い

県指定文化財「三重塔」の清掃ボランティア

この他にも、数々の行事を予定しています!



▲平成24年 秋のバスハイク(みやま市)

みやこの歴史発見伝 65

ドイツ文学者・漱石門下

小宮豊隆

こみやとよたか

再編集版

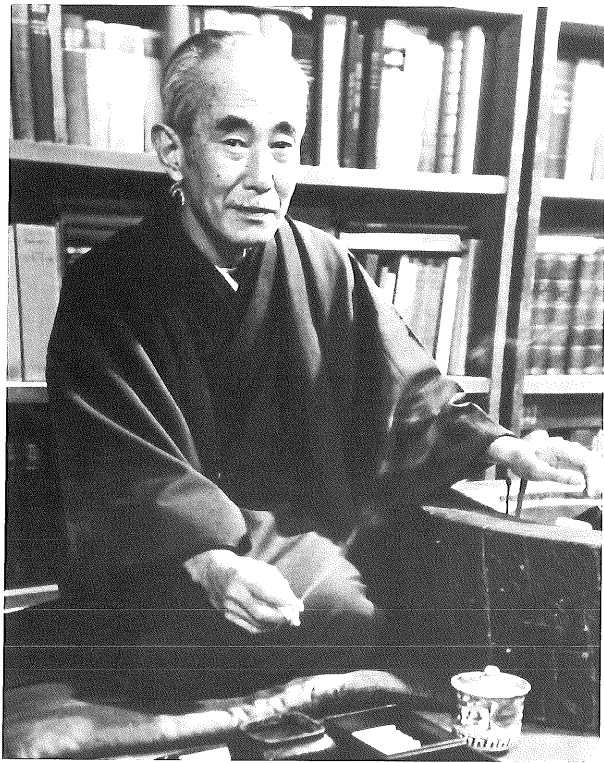
女手に育ちて

小宮豊隆は、明治十七年（一八八四）、仲津郡久富村（現みやこ町犀川久富）で生まれました。旧制中学校の教員であった父弥三郎の転勤により、幼年の頃は大和郡山（奈良県）で過ごしましたが、明治二十四年に帰郷し、豊津尋常小学校（現豊津小学校）に通いました。それから間もない明治二十七年に父が亡くなり、豊隆は祖母と母とに育てられました

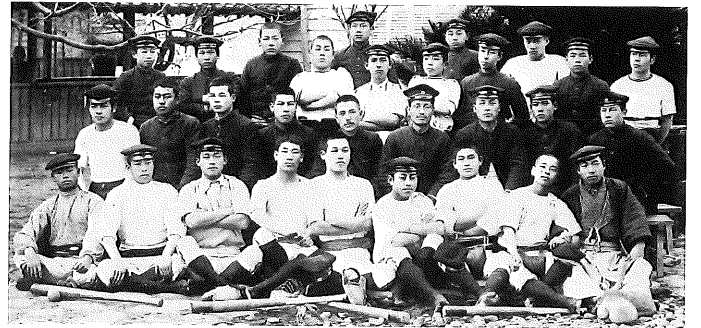
た。後年、師である夏目漱石に激賞されたという彼の俳句「女手に育ちて星を祭りけり」は、そんな生い立ちにちなんで詠んだものです。

漱石との出会い

明治三十五年（一九〇二）、福岡県立豊津中学校（現育徳館高校）を卒業した豊隆は、第一高等学校（現東京大学教養学部）へ進み、同三十八年には東京帝国大学独文科に入学しました。その際、



▲小宮豊隆



▲旧制豊津中学校 野外運動部卒業記念写真(明治35年) 3列目向かって右から2人目が小宮豊隆

従兄弟の犬塚武夫（ロンドンで漱石と同じ下宿に住んだ人物）の紹介で、当時東京帝国大学の英語講師であった夏目漱石と出会い、大学在学中の保証人となってもらいました。豊隆は、既に豊津中学校時代から漱石の名を知っていましたが、これを機に、漱石と生涯にわたる師弟の関係を結ぶことになったのです。

豊隆の、漱石に対する敬愛の念は漱石自身にもたしなめられるくらい強く、周囲が彼を「漱石神社の神主」と呼ぶほどのものでした。漱石の没後（大正五年没、豊隆の手による『漱石全集』の編集や、漱石文学の研究は、まさにその強い思いによるもの

でした。生前の漱石もまた、門下生の中で特に豊隆を可愛がったといえます（ちなみに、小説『三四郎』の主人公小川三四郎は、その住所が「福岡県京都郡」であることから、小宮豊隆がモデルと言われる）。

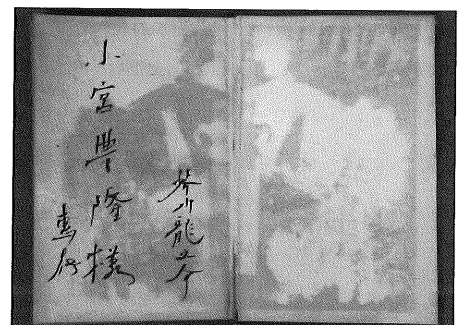
多才な文筆活動

漱石門下としての一方で、大学を卒業した豊隆は、専門であるドイツ文学の研究者としての道を歩み、慶応大学、海軍大学、法政大学などで教鞭をとりました。また、大正十三年（一九二四）には、東北帝国大学（現東北大学）ドイツ文学講座の初代教授に就任。第二次大戦後は、東京音楽学校（現東京藝術大学）校長、学習院女子短期大学学長などを歴任しています。

他方で、豊隆の研究活動は専門の枠を越え、俳句や歌舞伎な



▲小宮豊隆文学碑(福岡県立育徳館高等学校)



▲芥川龍之介『羅生門』署名入り初版本 (みやこ町所蔵・小宮家寄贈)

どにまで及びました。その多彩な研究活動と博識さを評し、周囲は「小宮先生は専門のドイツ文学以外は何でも知っている」と揶揄したそうです。

小宮豊隆資料の寄贈

小宮豊隆は、昭和四十一年（一九六六）に東京都杉並区の自宅で亡くなりました（享年八十二歳）。それから約三十年後の平成八年、小宮豊隆旧蔵の図書数千冊が、小宮家から旧豊津町に寄贈されました。また、去る五月七日、合計四百七十七点の資料が、小宮家からみやこ町に寄贈されました。その内容は、夏目漱石から小宮豊隆に宛てた手紙約百二十点、同じ漱石門下で小宮豊隆と親交の深かった物理学者・寺田寅彦の手紙約二百二十点のほか、漱石自筆の書画など、文字どおり第一級の資料ばかりです。二年後には常設展で全面公開の予定。お楽しみに！